

実施要領 様式11(第13条関係)  
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	270101462
法人名	株式会社拓新設計
事業所名	グループホームやまびこ荘
所在地	青森市大字大矢沢字里見209-220 (電話) 017-728-7313
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月17日

【情報提供票より】(平成19年7月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 3.4人

(2)建物概要

建物構造	木造・平屋・一部鉄骨 造り
	1 階建ての ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代2,000円/回ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要( 7月12日現在 )

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	55 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	斉藤内科小児科医院、協立クリニック、ミナトヤ歯科、鳴中内科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは郊外の自然豊かな環境に囲まれた場所に立地している。敷地内には畑が設置されており、利用者が持っている力量を引き出すとともに、意欲の向上を目指して畑作業等に積極的に取り組んでいる。また、屋根付きの中庭があり、ホーム内への閉じこりの解消や利用者の運動機能の維持増進につなげる空間として役立つほか、ボランティアによる演芸の披露や地域交流の場として活用している。

安全対策のために、中庭やホーム周りの散歩コースには弾力性のあるウッドチップを敷き詰めており、転倒による怪我防止に努めている。また、運営母体が設計事務所であることから、浴槽の設置位置を工夫して職員の介助負担の軽減を図る等、建物内部の設計に配慮し、利用者の重度化にも対応できる造りとなっている。

外部研修やその後の伝達研修等で地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する理解を深め、利用希望者がいる場合には支援できる体制を整えている。また、虐待について理解する機会も持っており、虐待の内容や発見時の対応等について全職員に周知するほか、虐待を未然に防ぐよう職員間でお互いのケアを観察する等の取り組みが行われている。

【特に改善が求められる点】

職員は身体拘束による弊害等を理解しており、拘束のないケアを実践しているが、やむを得ず拘束を行う場合に備えて理由等を記録する様式を整備してはどうか。

職員がカロリーや栄養バランスに配慮した献立を作成し、食事や水分の摂取量を把握する等の取り組みを行っているが、保健所等の協力を得て、栄養士などから定期的に指導や助言を得ることができると期待したい。

全職員が平均的に外部研修を受講し、受講後は報告書を基に他の職員に伝達する等、職員の質の向上に向けた取り組みを行っているが、内部・外部研修の年間計画を作成し、より計画的に取り組んではどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を会議等で全職員に報告するとともに、改善に向けた方法を検討し、利用者の権利と義務を重要事項説明書に明示したり、ホーム内に掲示する等の取組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全体ミーティング等で評価のねらいや活用方法等について理解を深めており、自己評価は全職員で作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催について年間計画を立てており、2ヶ月に1回開催している。会議では日々のケア全般や利用者の生活の様子、自己・外部評価の結果等を報告し、委員から意見や要望を出してもらい、サービスの向上につなげている。また、委員である地域包括支援センターの職員から権利擁護事業等の諸制度を覚えてもらう等、運営推進会議をホーム運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便りや面会時、電話等で利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況等について報告するほか、ホーム内外の苦情受付窓口を周知している。また、ご意見箱を設置する等、家族の要望等を把握する取組みを行っており、家族から意見等が出された時には運営推進会議等の場を活用して対応している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩に出かけた時等、日常的に住民と挨拶を交わしたり、町会の行事に参加する等の取組みにより、地域住民にホームが理解され、菜園作りの指導を受けたり、野菜を頂戴するほか、幼稚園児が訪れる等の交流が図られている。また、今後は、実習生やボランティアの受け入れ拡大を図って行きたいと意欲的である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩に出かけた時等、日常的に住民と挨拶を交わしたり、町会の行事に参加する等の取組みにより、地域住民にホームが理解され、菜園作りの指導を受けたり、野菜を頂戴するほか、幼稚園児が訪れる等の交流が図られている。また、今後は、実習生やボランティアの受け入れ拡大を図って行きたいと意欲的である。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>職員は、「安心して明るい生活を送る」という理念に基づき、利用者が地域住民との良い関係を持ちながら、一人ひとりが有する能力を活用して自立した生活を送れるよう支援している。また、認知症の進行の緩和と精神面の安定を図ることを合言葉に、利用者の身体機能の維持や更なる増進を目指し、日々のケアを提供している。</p> <p>入居時や退居時には重要事項説明書等を基に、利用者や家族に十分に説明するほか、退居時には必要に応じて退居先の情報提供を行う等、利用者や家族に不安を与えないよう配慮している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居前に利用希望者や家族と面談し、悩みを聞いたり、疑問点を解消する等、信頼関係の構築に努めている。</p> <p>職員は、利用者や「共に暮らす同士」という信念を持つとともに、人生の先輩から教えてもらうという考えのもと、利用者の思いを共感し、共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日常生活や外出等の行事の時には、利用者や家族の意向を重視しており、他施設の陶芸教室に引率したり、訪問マッサージを受け入れる等の柔軟な対応を行っている。</p> <p>日々の利用者の言動から一人ひとりの思いや希望を汲み取るよう努めるとともに、全職員で話し合いを行い、利用者本位の介護計画を作成している。計画は3ヶ月をめぐりに見直しを行うほか、利用者の状況を常に観察し、状態変化等がある時には随時の見直しを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、利用者の生活歴や価値観によって、個々に生活リズムやペースがあることを理解しており、利用者本位の生活支援を行うことを合言葉にして日々のケアを提供している。また、利用者のプライバシーの尊重はもとより、居室は利用者の住居であることを認識し、利用者が安心かつ安全に、居心地良い生活が送れるよう努めている。</p> <p>感染症の予防・早期発見・対応マニュアルを整備しており、常に最新の情報を収集して職員に周知するとともに、マニュアルの見直しを行っている。また、感染症に関する情報は利用者や家族にも周知し、インフルエンザの予防接種を実施する等の取組みが行われている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。「安心して明るい生活を送る」というホーム独自の理念を掲げているが、地域密着を反映させたものとはなっていない。	○	全職員で地域密着型サービスについて話し合う等、現在の理念に地域密着の役割等を盛り込んでどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングでは理念に基づいた支援を提供しているか確認し、月1回の全体ミーティングでは理念に基づいた月間目標を掲げる等、理念を常に念頭に置いてサービスを提供できるよう努め、質の向上につなげている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩に出かけた時に挨拶を交わしたり、町内会の行事に参加する等、近隣との関わりを持っており、住民の方々が菜園作りの指導をしてくれる等の関係が築かれている。また、幼稚園児が遊びに訪れたり、地域の介護研修に出席する等の取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体ミーティング等で評価のねらいや活用方法等について理解を深めており、自己評価は全職員で作成している。また、外部評価の結果を会議等で報告し、改善に向けた取り組みを検討し、実践している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催について年間計画を立てており、2ヶ月に1回開催している。会議では会議の意義や役割を説明するほか、利用者の様子や自己・外部評価の結果等を報告している。また、委員からの質疑応答を受ける等、委員に意見を出してもらうよう働きかけを行い、出された意見を今後のサービス向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にパンフレットを配布するほか、利用者の入退居等の相談や指導を得ている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参画しているので、ホームの状況を把握してもらうとともに、指導や助言を得ている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修や全体ミーティング等で地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めており、現在は制度の利用者はいないが、必要な時には対応できる体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やその後の伝達で虐待に関する知識を深めている。また、お互いのケアを観察し、相互チェックを行うことで虐待の未然防止に努めている。虐待を発見した場合の対応方法等についての取り決めがあり、それが全職員に周知されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は重要事項説明書を基に十分に説明を行い、不安や疑問点を解消し、理解してもらっている。また、退居時にも十分に説明を行って同意を得、必要に応じて退居先の情報提供を行う等の支援が行われている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームや利用者の状況についてはホーム便りを利用して定期的に家族に報告している。また、一人ひとりの健康状態や受診状況、職員の異動等はその都度報告している。利用者の小遣いについては出納帳に記録しており、領収書を添付して定期的に報告し、承認を得ている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で家族の意見や要望を引き出すよう心がけている。ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示するとともに、廊下に掲示している。また、ご意見箱を設置して継続的に苦情受付について周知する等の取り組みも行われている。家族から意見等が出された時には運営推進会議等の場を活用して対応している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が利用者にも心理的影響を与えることについて理解しており、異動等を行う時には利用者にも十分に説明するとともに、職員間での詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者や管理者は、職員の質の確保・向上に向けた取り組みが不可欠であることを理解しており、平均的に外部研修に職員を派遣し、受講後は報告書を提出して報告会等を行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	より計画的に職員の更なるレベルアップにつなげるため、職員個々の経験や力量等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行っている同業者の研修会等に積極的に参加して情報収集するとともに連携を図り、日々のケアに活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用希望者や家族と面談し、心身の状態や困っていること、不安なこと、ホームへの希望等を引き出し、信頼関係を築くよう努めるとともに、利用者の視点で支援するよう心がけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に暮らす同士として、利用者の思いを共感し、理解するよう努めている。また、利用者一人ひとりに役割を持ってもらい、職員が利用者から教えてもらう等の関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりを通して利用者の思いや意見を聞くほか、行動や表情を観察して要望等の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりや家族からの聞き取りを基に利用者の思いや意見を把握するとともに、全職員で話し合い、利用者本位の具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、基本的には3ヶ月毎の見直しを行っている。また、状態変化時には随時見直しを行っている。見直しを行う時には、必要に応じて利用者や家族等の意見を聞いており、現状に合わせた計画を作成するよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や希望する病院への受診支援を行うほか、他施設の陶芸教室への引率や訪問マッサージの受け入れを行う等、利用者個々の希望に合わせて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関で継続して受診できるよう支援している。受診時の通院介助方法や情報の伝達方法状況について家族との合意が図られており、受診結果はその都度家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには基本的には対応していないが、ホームで最期を過ごしたいという利用者の希望を尊重することもある。日々の健康管理等については家族との意思統一が図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り等で利用者への対応について話し合っており、一人ひとりのプライバシーを尊重した声かけや支援を行うよう努めている。また、個人情報保護法について理解しており、記録等の個人情報は事務室に保管して慎重に取り扱う等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を否定することなく、一人ひとりの生活リズムや希望、訴えを尊重し、個々のペースにそった支援を行っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みや旬の食材を取り入れるよう配慮するほか、利用者の状況に応じて野菜等の下ごしらえや配膳、下膳等を手伝ってもらっている。また、職員も利用者と同じテーブルと一緒に食事を摂り、食べこぼし等にはさりげなくサポートしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、利用者の希望によってはいつでも入浴できる体制となっている。利用者や家族から習慣や好み等を聞いており、個々に合った入浴支援を心がけている。入浴を拒否する利用者には声かけを工夫する等、無理強いすることなく入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や習慣、希望、力量等を踏まえ、利用者一人ひとりにとって何が楽しみごとになり得るかを把握しており、個々に合わせて洗濯物たたみや花壇・畑の手入れ、食事の準備や片付け等を促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状況、希望に応じて日常的に散歩や買い物、ドライブ等に出かけている。外出する際には利用者の心身の状態を考慮し、必要に応じて車椅子を使用する等の支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束の弊害等について話し合い、身体拘束のない支援を実践しているが、やむを得ず拘束を行う場合に理由等を記録する様式などを整備するまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由等を記録する様式や、管理者・責任者・医師等への連絡手順、家族等の同意書などを整備することに期待したい。様式や対応手順等はマニュアルとして整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、ドアに鈴をつけて利用者の出入りを察知できるようにしている。また、一人ひとりの行動傾向を全職員に周知しており、外出傾向を察知した時には職員が付き添って散歩に出かける等の対応を行っている。無断外出時に備えて、近所の住民や駐在所にはホームや利用者を理解してもらい、協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、災害時に備え、運営推進会議を通して町内会の協力が得られるよう働きかけを行うほか、食料や生活用品等の備蓄品を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が摂取カロリーや栄養バランスに考慮した献立を作成し、食事摂取量や水分摂取量を個別記録に記載する等の取り組みが行われているが、栄養士等から献立などに関する助言や指導を受ける体制までにはなっていない。	○	保健所の協力を得る等、定期的に栄養士等の専門家から献立に関する指導等を受けることができる体制作りを期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・早期発見・対応マニュアルが整備されており、常に最新の情報を収集して全職員に周知するとともに、マニュアルの見直しを行っている。また、利用者や家族にも感染症に関する情報を説明しており、インフルエンザの予防接種を実施する等の取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の草花が飾られているほか、廊下や居間には季節感のある掲示物や手作り品が置かれている。また、調度品には木製品が多く取り入れられており、家庭的な雰囲気となっている。職員が立てる物音やテレビ等の音量は適切であり、また、カーテンで日射しを調整する等、落ち着いた居心地の良い空間作りに配慮している。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を持ってきてもらうよう家族等に働きかけており、家族の写真やなじみの家具等が持ち込まれている。また、行事の写真や手作り品等が飾られており、利用者一人ひとりの個性がある居室となっている。		

※  は、重点項目。